



SPECIAL THANKS

Stage Manager / 田代 こずえ様
Reception / 中村 つかさ様、橋本 彩乃様、小田倉 翔様
Movie / 山崎 晶弘様
Photo / 日出間 梓未様

宇都宮プラスソサエティ様
栃木県宇都宮市立若松原中学校 吹奏楽部様



Ten Piece Brass
ONELINE *5th Concert

WEST
SIDE
SHOW



Ten Piece Brass

ONELINE *5th Concert

テンピースプラス ワンライン 第5回コンサート

2014年

2/23



13:30開場
14:00開演

清瀬けやきホール



Tonight the world is wild and bright.

「今宵、世界は素晴らしく、光り輝いている」

ニューヨークのダウンタウン、ウエスト・サイド。移民の多いこの町では、かねてから対立関係にあるベルナルド率いるプエルトリコ移民のシャーク団と、リフ率いるポーランド系アメリカ人のジェット団の2つのグループが、ことある毎に衝突を繰り返してきた。ある日、ベルナルドの妹マリアは、兄たちシャーク団に初めてのダンス・パーティへ連れて行かれる。そこへジェット団のメンバーも現われ、2つのグループは競うように踊り始めた。そんな中、マリアはジェット団の元リーダー、トニーに出会い、互いに心を奪われる。だが、それは許されない恋の始まりだった…。

1st Stage

カービー・ロンズデール (ゴフ・リチャーズ)

Kirkby Lonsdale by Goff Richards

ロンドンデリー・エア (アイルランド民謡 / ハワード・スネル編曲) **トロンボーン・ソロ: 藤井義隆**

Londonderry Air by Howard Snell, Trombone Solo by Yoshitaka Fujii

組曲「ディベルティメント」 (フィリップ・スパーク)

Divertimento by Philip Sparke

休憩

2nd Stage

トゥナイト (レナード・バーンスタイン / エイドリアン・ドローバー編曲)

Tonight by Leonard Bernstein / arr. Adrian Drover

メキシカン・ハット・ダンス (パーティセラ / ジョン・アイヴソン編曲) **コルネット・ソロ: 高木弘幸**

Mexican Hat Dance by Particella / arr. John Iveson, Cornet Solo by Hiroyuki Takagi

浜辺の歌 (成田 為三 / ゴフ・リチャーズ編曲) **ユーフォニアム・ソロ: 本多 沙織**

Hamabe no uta by Tamezou Narita / arr. Goff Richards, Euphonium Solo by Saori Honda

12番街のラグ (ユーディ・L.ボウマン / アラン・ファーニー編曲)

12th Street Rag by Euday L. Bowman / arr. Alan Fernie

休憩

3rd Stage

組曲「ウェスト・サイド・ストーリー」 (レナード・バーンスタイン / エリック・クリース編曲)

West Side Story by Leonard Bernstein / arr. Eric Crees

カービー・ロンズデール

ピーターラビットで有名なイギリス北西部の湖水地方の田舎町「カービー・ロンズデール」にあるブラスバンドのために作曲されたマーチ。6/8拍子の弾むリズムは美しく広がる田園風景を元気に飛び回るピーターラビットの姿が連想できる。

ロンドンデリー・エア

ダニーボーイの名前でも有名なアイルランドの民謡で、北アイルランドでは事実上の国歌ともいわれるほど大変人気のある曲。いままで数多くアレンジがなされているが、今回はテンピースプラスの第一人者ハワードスネル氏編曲による、トロンボーンソロをピックアップ。

組曲「ディベルティメント」

ファンファーレ～序曲～ワルツ～哀歌～終曲～ファンファーレの6曲からなる組曲は、1～2曲目と5～6曲目の間は切れ目なく演奏されるため、実際には4曲の組曲に思われるだろう。間に挟まれる哀歌は、他の明るく輝かしい曲とは対極的に悲しく美しい叙情的な音楽に熱気も高まり、この組曲の頂点と言える。

トゥナイト

ウェストサイド物語の名場面、トニーとマリアが恋心を歌い合う「バルコニーシーン」の曲。ダンスパーティで初めて出会った二人は恋に落ち、今夜を境に素晴らしい人生が始まったと歌う。編曲はメイナード・ファーガソン・オーケストラで/バストロンボーン奏者として活躍したエイドリアン・ドローバーにより、ロックテイストに仕上がっている。

メキシカン・ハット・ダンス

メキシコの大衆音楽を演奏する楽団の様式「マリアッチ」のもっとも有名な曲。マリアッチは祭りや結婚式などメキシコの人々の生活には欠かせないもので、アメリカ合衆国では移民たちが持ち込んだ文化として有名。メキシコ系移民にとって最も重要な5月5日の祭り「シンコ・デ・マヨ」で演奏される。

浜辺の歌

成田為三の優雅なメロディと林古溪の美しい詩は日本にのみならず、海外の歌手や音楽家たちに多く演奏されるなど、日本の名曲として国を越えて知られている。ヘルリン・フィルの首席フルート奏者、ジェームズ・ゴールウェイによる演奏は、世界中のクラシックファンを魅了した。

12番街のラグ

20世紀初頭にアメリカで流行したラグタイム時代の代表曲。ラグタイムとはアフリカ系アメリカ人が自らのルーツ音楽の特徴であるシンコペーションと、マーチのリズムと融合させた音楽。クラシック音楽のリズムとは違い、ずれたように聞こえることから「ラグタイム(時間のずれ)」と呼ばれるようになった。のちのジャズの一要素。

組曲「ウェスト・サイド・ストーリー」

『ウェスト・サイド物語』は、ジェローム・ロビンズ原案、アーサー・ローレンツ脚本、レナード・バーンスタイン音楽、ステイヴン・ソンドハイム歌詞のプロードウェイ・ミュージカルで、1957年に初演された。シェイクスピアの戯曲『ロミオとジュリエット』に着想し、当時のニューヨークの社会的背景を織り込みつつ、ポーランド系アメリカ人とブルジョア系アメリカ人という2つの異なる少年非行グループの抗争と、それにより犠牲となる若い男女の2日間の恋と死を描いた。この組曲はウェストサイド物語の音楽から、プロローグ、マンボ、チャチャ、クール、サムウェアの5曲をメドレー形式で構成。

プロローグ

白人系少年非行グループのジェット団はストリートを仲間たちと堂々と歩くことを何より大切に思っていた。そこへ自分たちは相容れぬブルジョア系移民のグループのシャーク団が徐々に勢力を増し、自分たちの縄張りを脅かすようになっていった。

マンボ

ジェット団は縄張り争いに決着をつけるため、ダンスパーティでシャーク団に決闘を申し出ることにする。ダンスホールでは大人たちが二つのグループを仲良くさせようと一斉に踊るよう促すが、うまくいかず、ジェット団対シャーク団のマンボ対決が始まった。

チャチャ

ダンスホールの片隅では、ジェット団の元リーダーのトニーと、シャーク団のリーダーベルナルドの妹マリアは一目見ると互いに惹かれあい、初めてキスを交わす。それを見たベルナルドは激怒し、マリアとトニーを引き離すと、決闘の申し出を受け入れる。

クール

決闘の条件を話し合うためにドラッグストアでシャーク団を待つジェット団は、高ぶる気持ちを抑えきれずにいた。ジェット団のリーダー、リフは今はまだクールにふるまうように歌うが、その歌詞とは裏腹に、抑えきれぬ感情は今にも爆発しそうになっていた。相手の出方次第ではナイフを持ち出すことも辞さない。

サムウェア

マリアへの愛のため決闘をやめさせようとしたトニーであったが、過熱する争いに巻き込まれ、とうとうマリアの兄ベルナルドを刺殺してしまった。マリアはそのことを打ち明けられ、打ちひしがれるが、トニーに二人で駆け落ちしようとする。きつと何処かに私たちが許される場所があるはずと。

MEMBERS



東 正和 (ソプラノコルネット)
MASAKAZU AZUMA *Soprano Cornet

使用楽器/マウスピース
Antoine Courtois AC107R-4 with DENIS WICK Heritage S
YAMAHA YCR3330S with MOMO 1&D



高木 弘幸 (コルネット)
HIROYUKI TAKAGI *Cornet

使用楽器/マウスピース
BESSON Sovereign BE928 with DENIS WICK RW4



木内 太一 (コルネット)
TAICHI KIUCHI *Cornet

使用楽器/マウスピース
BESSON Sovereign BE928 with DENIS WICK RW4



山本 宏美 (フルユーゲルホルン)
HIROMI YAMAMOTO *Flugelhorn

使用楽器/マウスピース
F.BESSON 15BF-2 with DENIS WICK 4F
BESSON Sovereign BE928-1 with DENIS WICK 3



竹ノ内 晋 (テナーホーン)
SHIN TAKENOUCHI *Tenor Horn

使用楽器/マウスピース
BESSON Prestige BE2050 with DENIS WICK Heritage 4



高木 理恵 (バリトン)
RIE TAKAGI *Baritone

使用楽器/マウスピース
BESSON Sovereign BE956 with DENIS WICK SMB9



本多 沙織 (ユーフォニアム)
SAORI HONDA *Euphonium

使用楽器/マウスピース
Willson TA2900BS with GRIEGO 5



川田 儀仁 (E♭バス)
YOSHIHITO KAWADA *E♭ Bass

使用楽器/マウスピース
BESSON Sovereign BE981-1 with DENIS WICK 3L



岡田 大和 (バストロンボーン)
YAMATO OKADA *Bass Trombone

使用楽器/マウスピース
Vincent Bach 90B with Bach 1G1/4



藤井 義隆 (トロンボーン)
YOSHITAKA FUJII *Trombone

使用楽器/マウスピース
Vincent Bach 42AG with Willie's POLARIS☆



悪原 至 (パーカッション)
ITARU AKUHARA *Percussion



安東 友樹子 (パーカッション)
YUKIKO ANDOU *Percussion

SOUND ADVISOR



小泉 貴久 (サウンドアドバイザー)
TAKAHISA KOIZUMI *Sound Advisor

東京都出身。10歳の時よりトランペットを始める。東京音楽大学トランペット科卒業。
トランペットを北村源三、丸山研也、林昭世の各氏に師事。2009年、Vivid Brass Tokyoの
ソリストとしてフィリップ・スバーク作曲の「Concerto Grosso」を作曲家自身の指揮で演奏し、
好評を得る。作曲・編曲活動も行っており、代表作として「Concertino for Premier Brass」
(金管8重奏)「Four Phases」(トランペット12重奏)「Dreaming」(吹奏楽)「Nostalgia」
(吹奏楽)「気・剣・体の一致」(無伴奏オーボエ)等がある。また、編曲作品では、Vivid Brass
Tokyoのための「ローマの祭り」がCDとして発売されているほか、オーケストラ、アンサンブル、
金管バンド、吹奏楽など多岐にわたる。

現在、Vivid Brass Tokyo、トランペットアンサンブル「ハツラー」各メンバー、
石川県トランペットソサエティ専属アレンジャー。

NEXT CONCERT

金管まつり2014 入場無料

12回目の
開催です!

2014年
6/21 土 さいたま市プラザウエスト さくらホール

Ten Piece Brass

入場無料 Free

ONELINE *6th Concert

テンピースプラス ワンライン 第6回コンサート

舞台を三鷹に
変えて開催!

2015年
2/11 祝 13:30開場 14:00開演 武蔵野市民文化会館小ホール